

土門拳記念館展示情報 2021

2021年10月6日(水)～12月22日(水) *休館日:12月6日(月)・13日(月)・20日(月)

主要展示室

古寺巡礼 京都

カラー・モノクロ 56点

古寺巡礼は土門拳のライフワークです。土門は全国の仏像を撮り歩きましたが、本展では京都の寺院で撮影された作品を展示します。平等院や神護寺、三十三間堂、西芳寺など、京都の名刹を土門の写真でお楽しみいただけます。

主要展示室

土門拳が撮った藤田嗣治『猫と女とモンパルナス』

モノクロ 24点

没後50年以上を経た今もなお、国内外で根強い人気を誇る画家・藤田嗣治。土門は戦前、ヨーロッパに渡る前の藤田の姿をたびたびカメラに収めていました。近年ではその写真が手掛かりとなって、藤田の画法の“秘密”が明らかになったことも。酒田市美術館で11月から開催される展覧会「池袋モンパルナスー画家たちの交差点ー」と併せて、昭和の洋画史をお楽しみください。

企画展示室Ⅰ・Ⅱ

第40回土門拳賞受賞作品展

大竹英洋『ノースウッズー生命を与える大地ー』

カラー 60点

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立した、日本有数の権威ある賞です。その年に作品（写真集、展覧会など）を発表し、優れた成果をあげた写真家が対象となり、受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

今回の受賞者である大竹英洋氏は、北米大陸に広がる世界最大級の原生林「ノースウッズ」をおよそ20年間にわたり取材。太古から人と自然の物語が紡がれてきたその大地の、厳しさと美しさに満ちた姿を追い続けてきました。40回目の受賞作品展となる本展では、大型プリント作品を中心に、長年の旅の集大成をご覧いただけます。

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地（飯森山公園内）

TEL: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>



《島の上のウッドランド・カリブー》

THE NORTHWOODS

大竹英洋写真展
ノースウッズ——生命を与える大地

2021年

10月6日[水]

12月22日[水]

休館日：12月6日(月)・13日(月)・20日(月)

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料／一般700円、高校生350円、中学生以下無料

年間券(1年間有効) 随時受付、特典あり

■普通年間券(3名まで入館可) 3,000円

■特別年間券(10名まで入館可) 15,000円

同時開催

古寺巡礼 京都



《三十三間堂内陣雷神像面相》



《制作する》

土門拳が撮った藤田嗣治
『猫と女とモンパルナス』

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)

TEL 0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

THE NORTH WOODS ノースウッズ

生命を与える大地

土門拳賞受賞のことは

遠い目標に向けて

オオカミを究極の目標に据えながら、カリブー、ムース、ホッキョクグマ、カラフトフクロウをカメラで捉えてきた。環境に適応して生きる野生動物たちの輝き、寒さの厳しい北国ならではの凛とした自然風景、この地で生まれたカヌーで旅をする魅力、そして、生命は大地に生かされていると語る先住民アニシナベの暮らし。それらの要素を詰め込んだ初めての写真集を出版するのに20年を要したが、それはきつと必要な時間だったと思う。

土門拳賞受賞の知らせを受けたのは、北海道の寒空の下だった。山々は雪に覆われ、湖は凍っていた。冷たい風が体の中を吹き抜けていくような気がした。努力が報われた清々しさと同時に、身が引き締まる思いだった。なぜなら、まだ満足のいくオオカミのポートレートは撮れていない。どこまで迫れるのか、その過程こそが今伝えるべき、人間と自然の物語なのである。

(「毎日新聞」2021年3月19日号より抜粋)

大竹 英洋 hidehiro otake

1975年生まれ。一橋大学社会学部卒業。1999年より北米の湖水地方「ノースウッズ」をフィールドに野生動物、旅、人々の暮らしを撮影。主な写真絵本に「ノースウッズの森で」、「春をさがして カヌーの旅」、「もりはみている」など(以上全て福音館書店)。2011年、NHKBS「ワイルドライフ」に案内人として出演。2018年、写真家を目指した経緯とノースウッズへの初めての旅を綴った『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森 ノースウッズ』(あすなろ書房)で「第七回梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞。2019年、「日経ナショナル ジオグラフィック写真賞2018 ネイチャー部門最優秀賞」受賞。2021年、撮影20年の集大成となる初の写真集『ノースウッズ 生命を与える大地』(クレヴィス)にて「第40回土門拳賞」受賞。



知られざる 森と湖の世界へ

太古から人と自然の物語が紡がれてきた
世界最大級の原生林、ノースウッズ。
カナダ初の世界複合遺産「ビマチオウィン・アキ」を含む
恵みの大地で、旅を続ける写真家の眼と心に映ったもの。



《スベリオル湖の夕暮れ》



《霧水に覆われた森》



《結氷を待つホッキョクグマ》



《オジロジカの子ジカ》

土門拳賞とは

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立した、日本有数の権威ある賞です。その年に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が対象となり、受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

今回の受賞者である大竹英洋氏は、北米大陸に広がる世界最大級の原生林「ノースウッズ」をおよそ20年間にわたり取材。太古から人と自然の物語が紡がれてきたその大地の、厳しさと美しさに満ちた姿を追いかけてきました。40回目の受賞作品展となる本展では、大型プリント作品を中心に、長年の旅の集大成をご覧ください。

古寺巡礼 京都

土門拳のライフワーク、古寺巡礼。土門は全国の仏像を撮り歩きましたが、本展では京都の寺院で撮影された作品を展示します。平等院や神護寺、三十三間堂、西芳寺など、京都の名刹が土門の独自のカメラアイによって鮮やかに写し出されています。



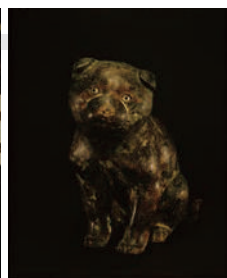
《ボディビル》



《面相筆で猫を描くフジタ》



《平等院鳳凰堂阿彌陀如来坐像見上げ》



《高山寺仔犬(伝 湛慶作)》

土門拳が撮った藤田嗣治『猫と女とモンパルナス』

没後50年以上を経た今なお、国内外で根強い人気を誇る画家・藤田嗣治。土門は戦前、ヨーロッパに渡る前の藤田の姿をたびたびカメラに収めていました。近年ではその写真が手掛かりとなって、藤田の画法の“秘密”が明らかになったことも。酒田市美術館で11月から開催される展覧会「池袋モンパルナス-画家たちの交差点-」と併せて、昭和の洋画史をお楽しみください。

event

土門拳賞受賞作家 大竹英洋氏 ギャラリートーク

10月9日(土) 14時~15時半
要予約 / 参加無料(要入館料)
定員30名

被爆ピアノコンサート

10月11日(月) 18時半~
要予約 / 参加無料(要入館料)
定員25名

ミュージアムコンサート / アコースティックスネアドラム SAWADA:snare drum solo 「石庭瞑想 ~古寺巡礼によせて~」

10月31日(日) 16時~
要予約 / 参加無料(要入館料)
定員25名

イベント開催に関する詳細は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、当館ウェブサイトでも随時お知らせいたします。